史編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）
〒550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2

第 43 号

大阪市史料調査会（編集）
大阪市立中央図書館内　TEL06-6539-3333

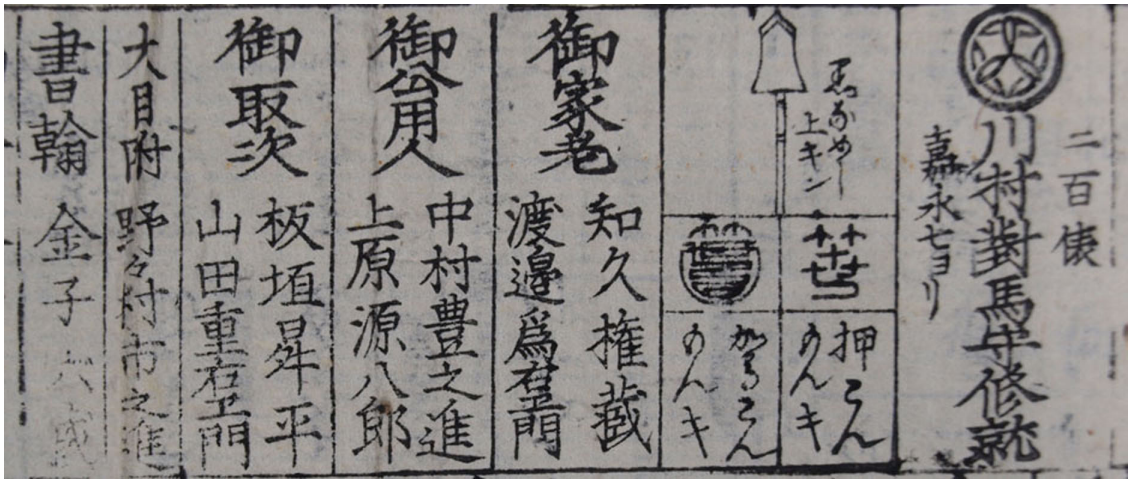
●史料集を刊行するということ　～埼玉県で見つかった大坂町奉行関係史料～

2008 年 8 月、群馬県在住の在野の研究者から 1 通の手紙が届きました。文面には埼玉県比企郡の小川町立図書館戸田文庫に大坂町奉行関係の史料が所蔵されているとのこと。2009 年 12 月に現地に赴き、「大坂御役所年中行事」「大坂町奉行引越旅中之部」「大坂御役所初入心得方」「大坂御役所御取次心得書」の 4 点の史料を撮影しました。

戸田文庫とは、戸田宇八（とだうはち）（1868 ～ 1911）という地元の文化人が収集した蔵書群です。なぜ大坂町奉行に関する史料が大坂から遠く離れた埼玉の戸田宇八のもとに渡ったのか、この謎の手がかりを求めて、くずし字で書かれた文章を活字に改める、翻刻作業を開始しました。

翻刻作業を行う中で浮き彫りになってきたのが、大坂町奉行の家来の動向です。大坂町奉行の家来とは、年 2 回、正月と 8 月に発刊された「浪華御役録」で説明しますと、東西町奉行の欄に記された家老・公用人・取次・大目付・書翰をはじめとする人たちをいいます。彼らは大坂町奉行により召し抱えられ、町奉行所内に居住し、大坂町奉行の公私を支えました。また大坂町奉行から他の役職に転任した場合、家来の多くが共に転任しました。そのため大坂には町奉行の家来の動向を示す史料がなかなか残らず、彼らのことがよくわかりませんでした。小川町立図書館に残った 4 点の史料により、大坂町奉行が江戸から大坂に赴任する道中や町奉行所への初入り時、年中行事における家来たちの動向や、家来のうち特に取次に関して、ごく一端がようやくわかるようになったのです。

翻刻作業を経た成果については、「大坂御役所年中行事」は 2012 年 1 月刊行の『新修大阪市史史料編』第 7 巻「近世Ⅱ政治 2」に、残り 3 点の史料は 2014 年 1 月刊行の『大阪市史史料第 79 輯　大坂町奉行着任時関係史料』に、全文を掲載しています。



「浪華御役録」嘉永 7 年（1860）八朔版　大阪市史編纂所蔵

さて史料からうかがえる家来たちは、儀式の作法に則って動くことが多く、単調な動きを見せます。史料集には解説を付し、家来それぞれが果たした職務について述べましたが、まだまだわからないことが多いというのが現状です。結局、大坂町奉行に関する史料が埼玉の地で見つかった理由もわかりませんでした。

それでも史料を翻刻し公刊したのは、小川町立図書館の史料がこれまでほとんど明らかにされてこなかった大坂町奉行の家来のことを語るものだったいうことに尽きます。くずし字で書かれた古文書が活字翻刻され、多くの人々の目に留まることにより、新たな史料の発見や研究の進展を期待し、史料集を刊行するのです。それは編纂所がこれまで刊行してきた他の『新修大阪市史　史料編』や『大阪市史史料』においても、同様のことが言えます。翻刻した史料の一点一点が大阪市域に関する歴史を語り、研究を進展させる一つの契機となってきました。編纂所による史料集の出版は、大阪市域の歴史研究進展の過程において、端緒を担っているのです。　（松本　望）

●渡邊邸の古文書～残された地域の記憶～

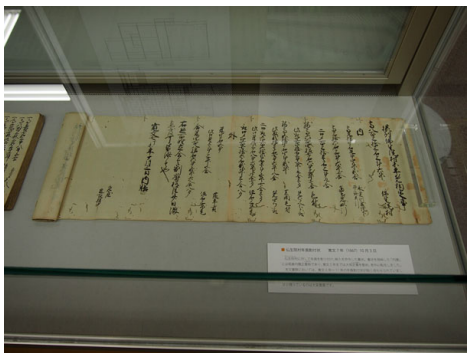
平成 24 年（2012）10 月、淀川区にあった江戸時代創建の古民家・渡邊邸が解体されました。解体当時、テレビなどのメディアでも多く取り上げられていたことから、ご記憶の方も多いと思います。渡邊邸は敷地面積は約 2560㎡にも及ぶ広大なものであり、昭和 32 年（1957）より実施された大阪府教育委員会による調査の結果、主家は 17 世紀初頭（江戸時代のはじめ頃）の建築と推定され、大阪市内に現存する最古の民家であることが判明しました。そのため昭和 40 年（1965）には、大阪府古文化紀年物等保存顕彰規則に基づく重要美術品（文化財）として指定されました。しかしながら平成22年に渡邊邸の所有者が亡くなられ、相続にあたっての高額の相続税などがネックとなり、残念ながら文化財指定を解除のうえ、家屋建物は解体されてしまいました。地元などからは市内最古の民家の解体を惜しむ声が多数にのぼり、その保存を求める取り組みも盛んに行われたものの、様々な事情のなか、その願いは叶いませんでした。

解体中の渡邊邸（2012 年 10 月撮影）

そのような折り、編纂所ではそれぞれ別のルートより二つの史料群を受けました。ひとつは平成 25 年（2013）2 月のこと。個人の方より大阪市に関係する古文書を、インターネットのオークションにて落札をしたとのご連絡を受け、史料群を借用の上調査を行ったところ、同史料群は解体された渡邊邸と関連するものであることが判明しました（『大阪の歴史』第 80 号の「史料収集彙報」を参照）。もうひとつは同じ年の 12 月に編纂所に入ってきた史料群で、こちらは渡邊邸の関係者より同邸に所蔵されていた史料群が大阪市に寄贈され、そのうち古文書・古典籍が編纂所所蔵資料として入ってきたものでした（『大阪の歴史』第 82 号の「史料収集彙報」に掲載予定）。

この二つの史料群については編纂所にて現在、史料に書かれた内容や書かれた年代、誰から誰に書かれたものであるかなどを調査し、目録の作成を行っています。この調査の過程で、これらの史料群のなかには、史料を所蔵していた渡邊家に関わる事柄のほか、渡邊家が庄屋をつとめた西成郡蒲田村に関するものや、蒲田神社の修復、天保大浚（天保 2 年から 3 年〈1831 ～ 32〉の淀川浚渫（しゅんせつ）工事）など、江戸時代後期から近代を中心とする地域社会に関する史料が残されていること

がわかってきました。そうした調査の過程で判明した成果については、今年（2014 年）の 4 月から 6 月、市立中央図書館で開催した「大阪市史編纂所 新収集資料展 2014」にて一部ご紹介いたしました（写真）。渡邊邸自体が解体されてしまったのはとても残念でしたが、この「渡邊邸の古文書」たちは、渡邊邸のあった地域の記憶を伝える役割を果たしてくれることと思います。



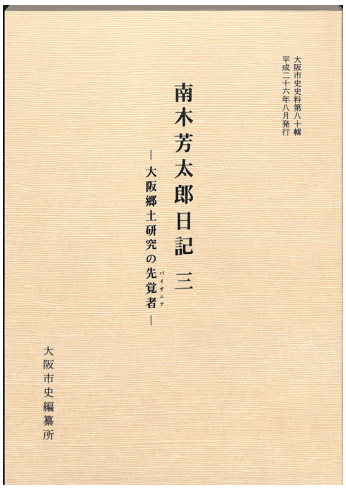
仏生院村年貢割付状　　寛文 7 年（1667）

編纂所では今後、この「渡邊邸の古文書」の調査を続けるとともに、編纂所が発行する『新修大阪市史　史料編』などの刊行物を通して、「渡邊邸の古文書」が語る地域の記憶をみなさまにお届けできるように進めていきたいと思っております。

（川内淳史）

◆ 新刊のご案内

『大阪市史史料』第 80 輯「南木芳太郎日記3―大阪郷土研究の先覚者（パイオニア）」



本書は、郷土雑誌『上方』の編集発行人南木芳太郎の日記を翻刻した史料集の第 3 弾です。本輯では昭和 12、3 年の 2 年分を翻刻しています。初代中村雁治郎亡き後の大阪歌舞伎界の動向や、かつての曾根崎新地の名妓佐藤くにの死亡など、次第に消えゆく「浪華の粋」文化についての貴重な記録となっています。また南木さんに迫り来る雑誌刊行の経営難や病魔との戦いを日記は伝えています。

◆ 近刊＆催し物のご案内

『大阪の歴史』第 82 号、近日刊行

大阪市史編纂所紀要『大阪の歴史』第 82 号は、10 月頃の刊行を予定しております。2014 年に成立 70 年を迎えた近鉄の沿革を紹介した武知論文などを収録しています。　　本体 700 円　送料 164 円

【主な内容】
- 武知　京三「近畿日本鉄道成立史の一断面」
- 橋爪　節也「明治二十一年の巨獣たち」
- 澤井　廣次「慶応二年大坂騒擾と戦時下の社会変容」
- 横山　篤夫「大阪地方世話部『陸軍墓地に関スル書類綴』について（下）」

史料でたどる「おおさか」講演会＆企画展示

今年度も恒例の「史料でたどる『おおさか』講演会」と関連史料の展示を予定しております。今回は『大阪の歴史』第 82 号掲載論文に関して、澤井廣次氏にお話いただきます。

詳細につきましては後日、ホームページなどにてお知らせいたします。

刊行物のお求め方法

大阪市史編纂所の刊行物は大阪市史料調査会で窓口・通信販売を行っています。また、下記の書店でお求めいただけます。詳しくは大阪市史料調査会（市立中央図書館 3 階市史編纂所内・電話 06-6539-3333）までお問い合わせください。

取り扱い書店：旭屋書店（天王寺ＭＩＯ店）、ジュンク堂書店（大阪本店・千日前店・難波店）、ミュージアムショップ文楽（大阪歴史博物館内）、紀伊國屋書店（梅田本店）

絵はがきでみる昔の大阪（21）

大阪淀川橋鉄橋（明治 34 年～昭和 3 年の間）

鉄道に関心のある人が増えていて、その中でも列車や駅、鉄橋などを撮影する人を「撮り鉄」と呼んでいるそうです。今回ご紹介するのは、長い鉄橋の絵葉書です。「大阪淀川橋鉄橋」と書いてあり、画面の下に「The Yodogawa-Bridge, (The Longest Bridge) Osaka」とあります。淀川にかかる最も長い橋という意味です。この橋は、赤川鉄橋と間違いそうですが、東海道本線の吹田－大阪間に設置された鉄橋です。ＪＲの新大阪駅を出て大阪方面行きに乗ると、すぐに淀川を渡るのがこの橋です。上淀川橋梁（かみよどがわきょうりょう）という名前で、全長は 670.5 メートルあります。明治 30 年に始まった淀川改修工事に伴い、明治 34 年（1901）8 月に改築完成しています。昭和 3 年（1928）に貨物用の鉄橋がすぐ横に架けられ、さらに昭和 31 年にもうひとつ鉄橋が架けられましたので、現在は 3 本の鉄橋が並んでいることになります。

この場所は川幅も広く、鉄橋を通過する列車等も見やすいので絶好の撮影ポイントとなっているようです。（ＪＲ福島駅と塚本駅の間で淀川を渡る橋が下淀川橋梁です）

関西地方での最初の鉄道は、明治 7 年に開通した神戸－大阪間の官営鉄道で、2 年後の明治 9 年に京都－大阪間が開通しました。当時は淀川改修以前でしたので、淀川の支流である中津川などの枝川が幾つかありました。そのため、京都へ向かう線路は今とは違うところで中津川に鉄橋を架けていました（上十三橋梁といいます）。その後明治 30 年から淀川の改修工事がはじまったため、線路の付け替えや鉄橋の位置変更などが実施され、上淀川橋梁が造られることになったわけです。

（堀田暁生）

★大阪市史編纂所では、ホームページを開設し市域の歴史に関する情報を発信しています。
http://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=871　または「大阪市史」で検索してください。
今日、大阪でどんな出来事があったかを知る「今日は何の日」、催し物や刊行物を紹介する「おしらせ」、「みんなの質問」では、全国の図書館に寄せられた「おおさか」に関する質問と回答を掲載しています。
また、この「編纂所だより」のカラー版の閲覧とダウンロードも、上記ホームページより可能です。

「編纂所だより」は３月と９月の年２回発行し、大阪市立各図書館のほか、各区役所、各区民センター、市役所市民プラザ、大阪市市民サービスカウンター、総合生涯学習センター及び各市民学習センター、大阪歴史博物館、大阪城天守閣、住まいのミュージアムなどに置いています（数に限りがあります）。大阪市立中央図書館（3 階大阪コーナー）及び各区の図書館では最新号を常備していますので、カウンターでおたずねください。
（平成26年９月発行）